



# 白虎隊の會長崎支部だより



第3号

平成25年12月28日

発行:長崎支部

## 下関支部が長崎を訪問

7月6日(土)、白虎隊の会下関支部の皆さんが長崎を訪れ、長崎支部と交流を行いました。

吉井克也支部長他11名の一行は、早朝下関を出発する際は激しい降雨に見舞われて、たいへんだったそうで、はるばる長崎まで訪問していただき、感謝申し上げます次第です。

途中、九州大学伊都キャンパスに立ち寄り、山川健次郎の胸像を見学した後、長崎に向かわれました。

長崎ではまず、長崎歴史文化博物館を訪問し、大堀哲長崎支部顧問(同博物館館長)の案内で館内を観覧しました。特に会津との交流歴史の展示フロアでは皆さん興味深そうでした。その後、西郷頼母の養子で柔道家・西郷四郎の顕彰碑や、神保修理の実弟・北原雅長初代長崎市長が碑文を書いた「五厘金之碑」や、飯盛山で自刃した石田和助の実兄・日下義雄の説明版などを見学していただきました。

夜は市内の中華料理店で長崎支部会員たちと親睦会を開催して楽しく懇談し、情報交換を行いました。食事の後、稲佐山に上り、新世界三大夜景に指定された長崎の夜景を見学されました。(草場里見)



長崎歴史文化博物館を見学



西郷四郎顕彰碑を見学



長崎支部が本年1月に設置した日下義雄初代長崎県知事の案内板を見学



懇親会終了後に両支部会員で記念撮影



## 鬼官兵衛記念館見学 ー南阿蘇ー

7月7日、白虎隊の会下関支部会員12名と長崎支部会員4名が朝8時に長崎を出発し、南阿蘇の「鬼官兵衛記念館」へ向かいました。鬼官兵衛記念館は、会津藩の元家老佐川官兵衛が西南の役に参戦して討ち死した二重の峠(騎牟礼城址)の近くの明神池あたりに、興梠二雄氏が個人で作った記念館です。佐川官兵衛は二重の峠に出陣するまでこのすぐ近くに本陣を置いていたそうです。

鬼官兵衛記念館へは昼過ぎに到着しました。小雨が降る中を興梠館長と北里事務局長が出迎えてくださいました。記念館前の「明神そば」で交代で食事をした後、本陣址を訪れました。記念館では興梠館長と福岡から駆けつけて頂いた柏木氏からお話を伺いました。



興梠氏によると、佐川官兵衛は西郷軍の小隊長と一騎打ちをしている最中に近くの村の住民から鉄砲で狙い撃ちされて討ち死したそうで、なんと卑怯なと思うと同時に、官兵衛の無念さを感じました。

工藤支部長によると、そもそも二重の峠に西郷軍が陣を増強しているとの情報入手後、急いで奇襲をかけるべきとの官兵衛の具申を無視した松垣隊長に問題があったとのことで、官兵衛も苦戦を覚悟し、出陣前に辞世の句「君が為 都の空を 打出でて 阿蘇山麓に 身は露となる」を残しています。

記念館前で集合写真を撮った後、興梠氏の先導で官兵衛が討ち死した場所を訪れました。



周囲はきれいに手入れがされており、会津藩の旗が数多くはためいていました。官兵衛の首を埋めたとされる首塚前に線香をあげ、みんなで冥福を祈りました。

佐川官兵衛はたった数日しか阿蘇にいませんでしたが、その麓に、官兵衛の慰霊碑が十数か所もあるそうです。いかに官兵衛が慕われる人柄だったのか偲ばれました

帰路につき下関支部とは玉名パーキングで再会を誓い、私たち長崎支部メンバーも無事帰崎しました。今回は日帰りの強行軍でしたが、次回は一泊してゆっくり訪れてみたいと思いました。(高久和也)





## 長崎龍馬会&白虎隊の会長崎支部共催

# 『東日本大震災チャリティーさるく』を開催！

7月21日(日)、加藤貴行・長崎龍馬会主任講師、我が工藤新一支部長の長崎スーパーガイドの案内で、『東日本大震災チャリティーさるく』が実施されました。

長崎市の最高気温33.1℃の猛暑の中、参加者12名は滴る汗をものともせず、本蓮寺、聖福寺、長崎歴史文化博物館、西郷四郎顕彰碑、五厘金之碑、小曾根邸跡、小島療養所跡などヒートアップする二人のガイドに耳を傾けながら、長崎の東北人、特に会津ゆかりの地を精力的にさるき回りました。

夜の懇親会では流した汗の水分補給をしながら、互いの活動をシェアしたり、今後の展望の話に花が咲くと共に、長崎での互いの協力体制を確認しました。

なお、チャリティーさるくの収益10,006円はあしなが育英会を通して、微力ながら東日本の震災復旧に役立っていただけるよう寄付を行いました。(白虎隊の会参加者:工藤、高久、吉武、森谷、田中)

※長崎さるく=「さるく」とは、まちをぶらぶら歩くという意味の長崎弁。2006年の『長崎さるく博』から脈々と受け継がれる長崎市観光コンベンション協会主催の町歩きイベント。(田中克幸)



## 日下義雄の妻 可明子夫人の墓所清掃

日下義雄の妻、可明子夫人の命日に先駆け、12月8日(日)、皓臺寺にある可明子夫人の墓所を白虎隊の会長崎支部の会員7名が訪ね、長崎支部として初めて皆で清掃を行いました。

落ち葉を掃いたり花立てや水鉢などに溜まった泥土を取り除いてきれいにしました。127年前に建てられたお墓ですが、お寺や管理されている方々のお陰で割合きれいに保存されているように見えました。

私たちがこのお墓を知って初めての清掃活動だったので必要な道具や足りない備品等も改めて分かり、今回はそれらを準備しなければならないと思いました。清掃後は工藤支部長を始め、参加メンバー全員でお花とお線香を供え、明治19年12月11日に20代後半という若さで亡くなった可明子夫人に思いを馳せながらご冥福をお祈りいたしました。(森谷妃子)





## ♥ 新会員より♥

4月に入会した吉武廣司・裕子です。「八重の桜」がきっかけで新島八重関連の本を何冊も読むうちに会津のことを知りたくなりました。その頃新聞報道で日下義雄説明版のことを読み、長崎にも白虎隊の会の支部があることを知りました。そのあと会員の高久さんのご紹介で入会させていただきました。お陰さまで、半日



会津若松城

あった東京での時間を利用して会津若松城見学に行ったり、何度も行っている京都では、初めて金戒光明寺も訪れることができました。

最初の例会は、何も知らなさすぎる二人で、工藤支部長や他の方々のお話を感心しながらただ聞くばかりでした。その後は、幕末関係のさるくや下関支部との交流会、熊本訪問、お墓掃除、例会と本当に楽しく参加させていただいています。年齢も違うメンバーですが、何時間も尽きることなくいろいろな話でいつも盛り上がっています。

来年はメンバーで会津訪問という大きな目標があります。健康に気をつけ（長崎支部は本当によく歩きます）、しっかりと足腰を鍛え、会津訪問や支部活動に備えたいと思っています。（吉武裕子）

## —今年を振り返って—

長崎支部長 工藤新一

今年は大河ドラマ「八重の桜」からはじまりました。1月には日下義雄の説明版の設置と講演会、飯沼一元氏の「飯沼貞吉の回生」、長崎歴史文化博物館館長で当支部顧問の大堀哲氏の「ならぬことはならぬ」の出版があり、私も長崎近代化遺産めぐり「夢の遺産」に日下義雄のコラムを書かせていただきました。

昨年末の長崎新聞に掲載の「史談・史論」が福島民報に掲載され、喜多方の方からご質問も頂戴しました。また、郡山の鈴木天眼の生地の桜を育てている方から長崎市に植樹したいとのありがたいお申し出もありました。何といっても下関支部の方々の長崎来訪と南阿蘇の鬼官兵衛記念館の興梠館長とも親交を深めたことが一番でしょう。

それと、日下義雄ゆかりの石田姉妹との出会い、日下の妻・可明子夫人のお墓の場所を知り、お墓参りができたことも忘れられない出来事でした。年末には、東京支部長の渡部麗氏とも交流してきました。

いよいよ来年は下関支部と会津に行きましょう。

そして会津に縁の深い長崎が、会津と長州の雪解けの一筋の春の光となりましょう！



下関支部との交流会時の写真